

目的 柿葉茶は昔から健康茶として知られているが、浸出液として飲用する場合にビタミンCの給源としての効用よりむしろポリフェノールの効用(血圧降下など)が注目されると考えられ、演者らは前学会において報告した。今回は各種の柿葉茶浸出液のポリフェノールの含量と色調を測定し、官能検査により嗜好との関連性の有無について調べた。更に高令者50、60年代女子と若年者20年代女子とで柿葉茶に対してモッイヌーギのちがい等を見る目的で調査を行なった。

方法 試料は茶葉5gに220 mlの80℃の湯で5分間浸出して用いた。1 浸出液の分析はpH, ポリフェノール量(フォーリンデニス法), 色調(色差計, Lab)を測定し官能検査は①市販柿葉茶3種(熊本, 愛知, 高知産)と②自製乾燥法別柿葉茶3種(そのまま乾燥, 蒸熱後乾燥, 真空凍結乾燥)③①と②でもっともよい評価を得た柿葉茶と寒茶(愛知県岡崎産, 寒の時に摘採する茶)について評定法により, パネル20年代30人により実施した。3. イヌーギ調査は柿葉茶, 寒茶について5. D法を用い, 相対する4組の刺激語をえうびパネル20年代52名, 50~60年代48名で調べた。

結果①柿葉茶, 寒茶はどれも蒸熱後検検を行わずに乾燥してゆきとこから, 両者のポリフェノール含有量及び嗜好を比較した結果, 分析測定値(全ポリフェノール量, 柿葉茶: 寒茶110.85mg/100ml)との間に関連性が認められた。②また色と滋味において有意差が認められた。③イヌーギ調査では高令者と若年層の人の間では栄養的, 安眠性等6項目に差が認められた。